

遠山ゼミ
オリエンテーションスライド
第2期(2024年度)

最終更新：2023年7月31日

遠山 祐太

自己紹介

▶ 遠山祐太（とおやま ゆうた）

- ▶ ホームページ(日本語) <https://yutatoyama.github.io/japanese>

▶ 経歴：

- ▶ 仙台市生まれ、仙台一高卒
- ▶ 京大経済→東大院修士（公共政策→経済学）→ノースウェスタン大学Ph.D. in Economics
- ▶ 帰国後、2018年9月より早稲田大学政治経済学部准教授
- ▶ その他のお仕事：UTEconアドバイザー

▶ 学部担当科目：

- ▶ 産業組織論/Industrial Organization（学部2年以上向け）
- ▶ 応用計量経済学：経済学における因果推論（学部3年以上向け）
- ▶ Topics in Economics: Microeconometrics（学部3年以上向け）

▶ 研究：産業組織論・応用計量経済学・環境経済学

- ▶ 企業合併の経済評価：現代・起亜自動車の事例
- ▶ 電力産業における排出権取引制度の経済評価
- ▶ その他：投票行動モデルの推定、ビッグデータを用いた特別定額給付金の分析

はじめに

- ▶ ゼミの応募に際しては、以下の文章についても必ず目を通すようお願いいたします。特に、参加に際しての科目履修要件、そして選考課題について詳しく書いてあります。
 - ▶ リンク：https://yutatoyama.github.io/teaching/zemi_for_AY2024
- ▶ ゼミに関する質問は以下のメールアドレスまでお気軽にどうぞ。
 - ▶ E-mail: yuta-toyama@waseda.jp

オリエンテーションスライドの目次

1. ゼミの概要・特徴・目標
2. ゼミの進め方
3. 研究の進め方について
 1. (応用)研究とは？
 2. 研究の進め方
 3. 実証研究に活用できそうなデータの紹介
4. 応募にあたって参考になりそうな文献紹介

ゼミの概要・特徴・目標

ゼミの概要：産業組織論・経済政策・消費者行動の実証研究

▶ 以下のような問いを考えてみましょう。

- ▶ 「公正取引委員会は航空会社の合併を許可するべきか？」（例：AIRDOとソラシドエア）
- ▶ 「家電メーカーの新製品にどのような価格をつけるべきか？」（例：バッファローのNasne）
- ▶ 「脱炭素を目指すために、企業に対してどのような規制を導入するべきか？」（例：GXリーグ）
- ▶ 「コロナ対策として行われた各種政策にどの程度の効果があったのか？」（例：特別定額給付金）

▶ これらの問いは重要である一方、理論のみで回答することは難しいでしょう。

▶ 本ゼミでは、**政策・ビジネスにおいて重要となる学術的問い**について、**マイクロデータを用いた実証研究**を行います。

ゼミの特徴

1. 学生の皆さんの自発的な研究活動を中心とします。
 - ▶ そのためのサポート・ガイダンスを遠山は行います。
 - ▶ 具体的な成果物(論文・プレゼンテーション)を産み出していきましょう。
2. 経済学の知見とマイクロデータの融合に基づいた実証研究を目指します。
 - ▶ 現実・データと立ち向かう際に、経済学の知見は強力な「レンズ」となります。
 - ▶ 「因果推論」と「構造推定」、両アプローチをバランス良く使いこなしていきます。

ゼミの目指すところ：短期的・長期的目標

- ▶ 短期的：経済学・データ分析を活かし、**政策・ビジネスにおいて重要な含意を持つ学術研究**を行えるようになる。
 - ▶ アカデミックリサーチにおいて、応用研究・実証研究の重要さは増す一方！！
 - ▶ 民間・公共部門でも数多くの活躍の場！！

- ▶ 長期的：時代に応じた**新しい知識を学び吸収していける人材**になる。
 - ▶ 今はデータサイエンスと経済学がブーム（?）。でも10年後は・・・？
 - ▶ 「今すぐ役立つもの」と「今はそうでもないけども、いつか役立つもの」をバランス良く学ぶ。

ゼミの進め方

ゼミの形態：学生の自主的な研究を中心とします。

- ▶ 学生の研究の進捗報告を中心に進めます。
 - ▶ 報告をし、それに対し私及び他の学生がフィードバックし、さらに研究を進める。
- ▶ 報告は「短めであるが、頻度多めに」
 - ▶ 報告→フィードバック→進める→報告→フィードバック、のループをガンガン回します。
- ▶ 他の学生からの積極的なコメント・質問を期待します。
- ▶ やむを得ない事情による欠席は、事前に教員及びゼミメンバー全員に必ず連絡してください。
- ▶ 「学期に一回の発表を乗り切れば、あとは教室に黙って座っていれば良い」というマインドセットの方にはオススメしません。
 - ▶ 同様の理由で、メインのゼミでの輪読はあまり行わない予定です。

ゼミのスケジュール：プレゼミから演習 2

▶ プレゼミ：研究の準備

- ▶ 論文を読んだり、プレゼンテーションについて学んだり、
- ▶ 計量経済学に関する履修要件を踏まえて、ゼミ生同士で計量経済学の進捗を確かめる機会としても。

▶ 演習 1：研究をはじめめる

- ▶ 研究プロポーザルの執筆と発表
- ▶ 関連する学術研究のサーベイ
- ▶ データセットの探索、記述分析

▶ 演習 2：演習 1 に引き続き研究

- ▶ 具体的な分析を進めていく。
- ▶ 冬の政経論文コンクールへ論文投稿できれば言う事なし！

ゼミのスケジュール：演習3と4

▶ 演習3と4：引き続き研究

- ▶ 前年からのプロジェクトを継続してもよし（ただし十分にものになりそうならば）
- ▶ 新しいプロジェクトを検討してもよし。
- ▶ 最終的に卒業論文提出

▶ 卒業論文を必須とします。そのために演習1から積み重ねて学習・研究していきます。

▶ 【検討中】演習1以降は每学期終わりに「論文ドラフト」の提出を求めるかもしれません。

- ▶ その時点で「何ができていて、何ができていないか？」を把握するため。
- ▶ これを積み重ねていくことで論文が出来上がっていきます。

サブゼミ：オススメします！

- ▶ メインのゼミでは輪読はあまり行いません。
- ▶ しかしながら、参加学生の皆さんの興味に応じて、サブゼミ等で輪読会をすることについて強く推奨します。
- ▶ 私の方からは、以下のようなサポートをさせていただきます。
 - ▶ 書籍・教科書の紹介
 - ▶ 輪読の中で出てきた不明な点などについての相談
 - ▶ もし私も興味ある内容ならば参加したいです。（例：機械学習、数値計算、などなど）
- ▶ ミクロ経済学、計量経済学、プログラミング、などなどの基礎体力づくりにサブゼミはとても良いかと思います。

参考として：1期生(23年度3年生)のこれまで

▶ プレゼミ期(22年秋学期)：

- ▶ 論文の輪読 & プレゼンテーション：[節電のフィールド実験](#)、[UBERのSurge pricing](#)、[子供向け医療無償化の効果](#)
- ▶ 計量経済学系科目の履修：「計量経済学」と「計量分析（政治）」

▶ 23年春学期：

- ▶ 「計量分析（政治）」での個別プロジェクトの発表
- ▶ 「Mock RA guide」によるデータ分析プロジェクトのグループワーク
- ▶ 個別プロジェクトを進める & 研究報告（一人30分を2セット）

▶ 23年秋学期：

- ▶ データサイエンス・コンペティションに参加。[テーマ：日経新聞のテキストデータの活用](#)
- ▶ 論文執筆

▶ 2期生も同様の流れになるかと思います。

研究の進め方

そもそも(応用)研究とは？

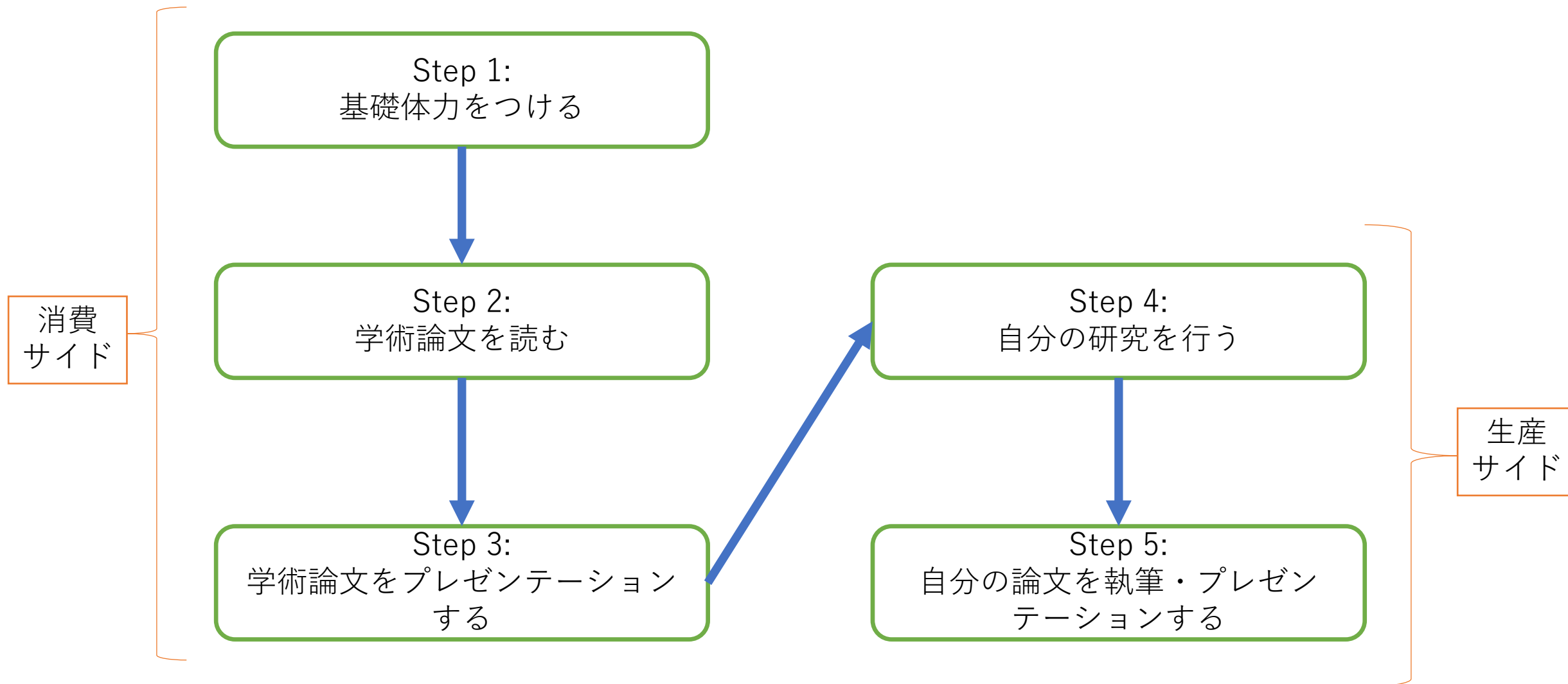
- ▶ 実証研究・応用研究における最低限の構成要素
 - ▶ **リサーチクエスチョン**：何が疑問・問いか？
 - ▶ **モチベーション**：なぜそのクエスチョンに解答することが重要か？(So what?)
 - ▶ **手法**：その間に説得的に回答するための方法 (**リサーチ・デザイン**)
 - ▶ **結果**：クエスチョンへの回答

- ▶ 学術研究になると上に加えて、
 - ▶ **文献(literature)への貢献**：先行研究と比較して何が新しい発見なのか？それがなぜ重要か？

私の研究の例：現代・起亜自動車の合併

- ▶ **クエスチョン**：現代・起亜自動車の合併によって、海外輸出、価格、そして社会厚生はどのように変化したか？
- ▶ **モチベーション**：トップ1・2企業同士の合併だったにも関わらず、「海外進出の伸びが期待できる」という理由で承認。それは妥当だったのか？
- ▶ **手法**：消費者の自動車需要モデル＋生産者の国内価格競争＆輸出競争のモデルを構築、ミクロデータを用いた構造推定、シミュレーション分析により合併を評価
- ▶ **結果**：輸出は増加し生産者余剰（利潤）は増えた。しかし、消費者余剰の毀損がとて大きく、全体としての厚生は低下した。
- ▶ **文献**：“The Effects of Domestic Mergers on Exports: A Case Study of the 1998 Korean Automobile Industry,” July 2017 (with Hiroshi Ohashi) *Journal of International Economics*, Volume 107, pp. 147–164
 - ▶ 日本語解説として「進化するビジネスの実証分析」のChapter 13「グローバル経済における企業合併」を参照。（ゼミオリエンテーションの共有フォルダ参照）

一例として・・・研究の5ステップ



ステップ1から3：「消費者」として

▶ Step 1: 基礎体力をつける

- ▶ 経済理論：ミクロ、ゲーム理論、産業組織論、応用ミクロ
- ▶ 統計・計量経済学、プログラミング
- ▶ 授業の履修(政経はとても充実していると思います!)とサブゼミで。

▶ Step 2: 学術論文を読む

- ▶ 論文の(1)問い、(2)モチベーション、(3)手法、(4)結果、(5)その含意を理解する。
- ▶ 論文の良いところ・悪いところを吟味する(目を養う)

▶ Step 3: 学術論文をプレゼンテーションする

- ▶ 論文を深く理解し、人に伝えられるようになる。
- ▶ プレゼンテーションに慣れる。議論としての質疑応答ができるようになる。

ステップ4から5：「生産者」として

- ▶ Step 4: 自身の研究を行う。
 - ▶ リサーチクエスチョンとモチベーションを立てる。
 - ▶ どのように分析するかを考える。データの収集と手法の考案
 - ▶ 実際に分析を行う。
 - ▶ これらのプロセスは一方方向ではなく、行ったり来たりするのが常。詳しくはゼミの中で！
- ▶ Step 5: 自分の論文を執筆し、プレゼンテーションする。
 - ▶ アウトプットがないと話が始まらない！！
 - ▶ 「0」から「1」を作るのは大変！できたらえらい！
- ▶ ポイント：Step 4はStep 2(論文理解)と、Step 5はStep 3(プレゼンテーション)と平行。「生産」を意識しながら、「消費」を行うのが重要。

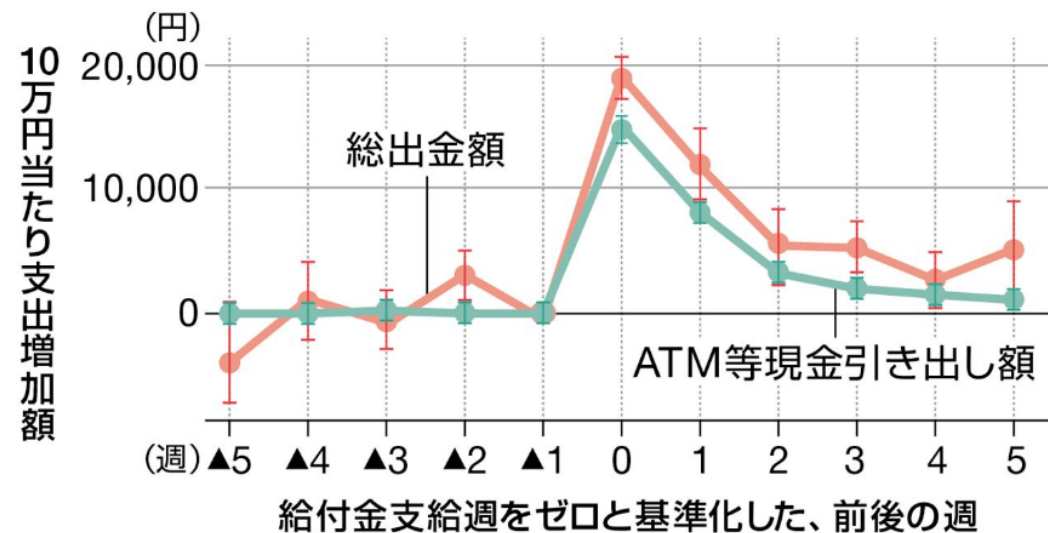
実証研究に使えそうなデータの例

- ▶ 紹介するデータはあくまで一例です。
- ▶ 皆さん自身で面白いデータを見つけ出してくることを期待します。
- ▶ データの例：
 1. みずほ銀行の口座・クレジットカードデータ
 2. NTT Docomoのモバイル空間統計
 3. 情報学研究データリポジトリ
 4. Data for EBPM (阪大国際公共政策)

みずほ銀行の口座情報・クレジットカードデータ

- ▶ みずほ銀行と早稲田大学の学術協定により、学術研究目的で利用可能となったデータ。
- ▶ 銀行口座の取引、クレジットカードの取引、ATMの取引などなど。
- ▶ 研究例：2020年特別定額給付金の消費換気効果の推定
 - ▶ 私、久保田先生（政経）、大西先生（教育）の共同研究
 - ▶ 週刊東洋経済「一律10万円の給付金で
 - ▶ 家計消費は増えたのか」
 - ▶ <https://toyokeizai.net/articles/-/573620>

■ 給付金受け取りの預金出金への反応



(注) 回帰分析で推計されたパラメーター値である。2019年同週と比較した数値であり家計レベルの要因と地理的・マクロ経済等要因はコントロールしている。バーは95%信頼区間を示す。▲はマイナス (出所) 筆者作成

NTT Docomoのモバイル空間統計

- ▶ いわゆる「人流データ」。リンク：<https://mobaku.jp/>
- ▶ 携帯電話の位置情報にもとづき、500m四方のエリアに各時間に何人滞在するかを推定
- ▶ 片山先生・濱野先生たちが「国会の質問主意書提出により、霞が関の残業がどの程度増えるか？」という研究をしています。
 - ▶ リンク：https://www.waseda.jp/fpse/winpec/assets/uploads/2022/03/E2125_version.pdf

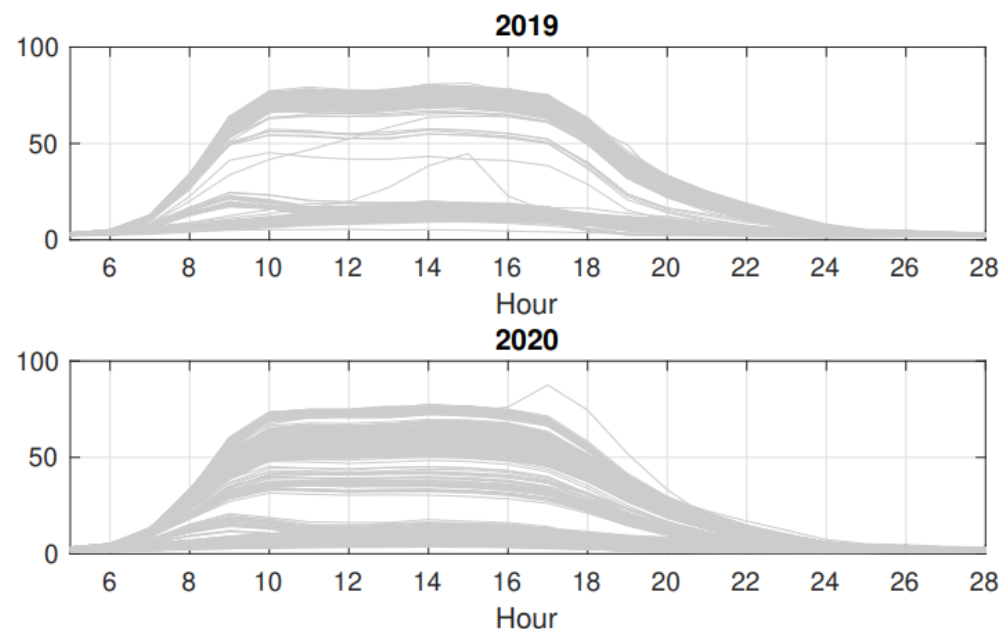


Figure 5: Mobility Patterns in the Kasumigaseki Area (thousands)

情報学研究データリポジトリ

- ▶ 国立情報学研究所が運営する、民間企業から提供されたデータセットの共同利用事業
- ▶ リンク：<https://www.nii.ac.jp/dsc/idr/>
- ▶ 一例
 - ▶ インテージのPOSデータ（スーパーマーケットなどの小売販売データ）
<https://www.nii.ac.jp/dsc/idr/intage/>
 - ▶ アットホームの不動産データ <https://www.nii.ac.jp/dsc/idr/athome/>
 - ▶ その他たくさん！！



NII 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所
National Institute of Informatics

IDR
情報学研究データリポジトリ

English

HOME | データ一覧 | 研究成果一覧 | ユーザフォーラム | 組織 | 関連リンク | 問い合わせ

Data for EBPM

- ▶ 社会科学研究のためのデータソースを集めたリンク。
- ▶ リンク：<https://www.osipp.osaka-u.ac.jp/ja/cepo/data-for-ebpm/>



ゼミに関して参考になりそうな資料・文献、その1

- ▶ 日本評論社 『進化するビジネスの実証分析』
 - ▶ <https://www.amazon.co.jp/dp/B086PTBFGB>
- ▶ 上武・遠山・若森・渡辺 「実証ビジネスエコノミクス」
 - ▶ <https://sites.google.com/view/keisemi-ebiz/>
- ▶ 前者は「産業組織論(IO)」の実証分析を中心に、その最新動向を解説します。
- ▶ 後者は、IOの実証分析ツールをビジネス事例を通じて学んでいく連載です。
 - ▶ 第一回の試し読みがこちら
<https://note.com/keisemi/n/n44a4bb2e8b9e>
 - ▶ Rによる再現コードもあります。



ゼミに関して参考になりそうな資料・文献、その2

- ▶ 日本経済研究センター「使える! 経済学 データ駆動社会で始まった大変革」

- ▶ <https://www.amazon.co.jp/gp/product/4296113739/>

- ▶ 政策・ビジネス実務における学術研究の活用について紹介されています。

- ▶ 本ゼミでは特に渡辺先生・上武先生の章が関連してきます。

使える! 経済学!
データ駆動社会で始まった大変革
日本経済研究センター——編

井深陽子 (YOKOI YOKO) 慶應義塾大学教授
小島武仁 (KOHJIMA TAKEHIKO) 東京大学教授
上武康亮 (KAMIKAWA HISAHARU) イエール大学准教授
野田俊也 (NOTA SHUNYA) 東京大学講師
仲田泰祐 (NAKATA TAISUKE) 東京大学准教授
成田悠輔 (NARITA YUHO) イエール大学准教授
渡辺安虎 (WATANABE ANIKO) 東京大学教授
坂井豊貴 (SAKAI YUTAKA) 慶應義塾大学教授

マーケティング 経営 人事
制度設計 医療・健康

広がるビジネス・社会活用の
事例と手法を紹介

日本経済新聞出版

ゼミに関して参考になりそうな資料・文献、その3

- ▶ 伊神満 「「イノベーターのジレンマ」の経済学的解明」
 - ▶ <https://www.amazon.co.jp/dp/4822255735/>
- ▶ ハードディスク産業におけるイノベーション・競争について、産業組織論の構造推定アプローチで分析した筆者の研究について解説しています。
- ▶ 産業組織論の実証分析の流れ・雰囲気掴めます。



ゼミに関して参考になりそうな資料・文献、その4

- ▶ 伊藤公一朗 「データ分析の力 因果関係に迫る思考法」
 - ▶ <https://www.amazon.co.jp/dp/4334039863>
- ▶ 「因果推論手法」を用いた、環境・電力・医療・政策など各種応用ミクロ経済学分野の実証分析について紹介しています。
- ▶ 産業組織論のみならず、ミクロデータを用いた実証研究全体に役立ちます。

